

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和8年4月24日(金)

令和8年4月24日(金)付南日本新聞に地域みらい留学生についての記事が掲載されましたので、紹介します。

さつま支局・中島裕二郎

記者の目

新緑がみずみずしさを増し、山々が日差しを浴びて輝く季節である。一方、人事で言えば、入学や入社など人生の新しい一步を踏み出した人も少なくない。浮き立つ気分と緊張感が交錯する。

先日、中高校生が新たな出発を期する二つの式典を取材した。一つは薩摩中央高校の入学式であり、もう一つは県内初となる公立の「学びの多様な化学学校」(不登校特例校)の開設式だった。

薩摩中央高の今年の新入生は、4科合わせて64人。この中には新年度からスタートした、生徒を全国から募集する「地域みらい留学」の生徒2人も含まれる。少子化などの影響で生徒数の減少が

春の野山のように

続く地域の学校にとって、一人でも多くの生徒に来てもらう魅力づくりが欠かせない。

みらい留学の生徒は、生物生産科で学ぶ宮崎健太さん(茨城県出身)と小川和真さん(大阪府出身)。早速、2人は同町内の農家でタケノコ掘りを初体験した。その屈託のない笑顔がいい。

学びの多様な化学学校は宮之城中学校の分教室「みらいのくむ拓」(拓、ひろく)。2年生と3年生の計5人が独自の教育課程で学ぶ。教職員らスタッフの温かいまなざしが、学びを包んでいる。

それぞれの生徒に未来は開かれている。自らを信じ、春の野山のように輝いてほしい。

2026-4-24(金)